



ゆきうさぎ

YUKIUSAGI

いわや 岩谷医院会報 第3号(新春号) 平成15年1月1日

皆様には、お元気に二〇〇三年の新春を迎えられたことと存じます。昨年日本列島の景気は上向きにならず、福島市においてもコルニエツタヤの閉鎖など、どちらかと言えば暗いニュースが多かった一年でした。なんとなく町行く人の姿にも活気が感じられなかったような気がしました。

でも皆さん健康な体があれば大丈夫。悪いことはいつまでも続きません。健康な体に健康な精神が宿ります。今年こそよい年になるよう前向きに頑張っていきたいと思います。



新年あけまして
おめでとうございます

院長より一言

ジェネリック医薬品(後発品…通称ゾロ医薬品)

今回はおくすりの話をします。

製薬会社が1つの薬を開発するには大変なお金と年月がかかります。通常15年で150億とも200億とも言われています。これだけの経費がかかるわけですから、新しい薬を発売するとその薬は先発品として、一定期間特許で保護され、しばらくは他の会社が同じ成分の薬を製造販売することはできません。

その期間が過ぎると、いろいろな会社が同じ成分の薬を作りそして販売することになり、これが後発品(ジェネリック医薬品)と呼ばれその価格は先発品の5分の4から5分の1に定められています。もちろん成分が同じですから、その効果も同じで、国による厳しい基準をパスしたものが販売されます。ちなみにアダラートという高血圧と狭心症のお薬には33もの後発品があり、それぞれ名前と価格が異なります。私も大学病院時代からの習慣で先発品を使うことが多かったのですが、最近は患者さんの医療費の

負担も考え、後発品も入れるようにしています。

しかし調剤薬局でそれらすべての薬品を揃えておく事は不可能ですので、おのずと限界はあります。その点も考慮して患者さんにはお薬の説明をしています。患者さんには飲みなれた薬の方が安心だからとおっしゃる方もいらっしゃいます。お薬は半信半疑で飲むものではないので、その点もよく説明しながら診察にあたりたいと思っています。

医院のモットーのヒヤシンス医療の「ヒ」はひらかれた医療です。医療費のしくみは複雑ですので、いろいろと疑問に思われることもあると思います。そんな時は遠慮なく医療事務、薬局に説明をもとめてください。

半信半疑で家路につくようでは、からだにとってもよくありませんから。

岩谷医院 院長 岩谷 文夫

福原 榮声

七十七歳になっても、まだマイクに向かって仕事ができるなんて、私は今とても幸せだと思っている。定年後に始めた「ふれスタ朝1番」というラジオ番組は、六月が来ると十年目を迎える。番組を始めるに当たって、私も健康が気にかかり、岩谷先生にいろいろとアドバイスを受けながら、ゴーサインを貰ったことを覚えている。

そんな私だが、最近になって駒澤大学から一通の手紙が送られてきた。「開校百二十周年記念式典の、司会を頼みたい」という内容に、予期していなかった私は大変驚いた。仕事柄、今日まで数多くの司会をこなしてきたつもりだが、母校の栄えある記念式典の司会を仰せつかるとは、夢にも思っていなかった。よく一世一代の仕事という言葉があるが、私の人生を飾るに誠に相応しい、またとないチャンスだと思った。しかも十月十五日の開校記念日は、人生七十四歳最後の、記念すべき格好の日でもあった。

さて、式典本番はさすが緊張の連続であったが、フィナーレを飾る校歌斉唱の場面では、「駒澤大学吹奏楽部と駒澤大学合唱団による校歌斉唱です」という紹介と同時に、プラスバンドの力強い演奏が始まり、私は大きな感動を覚えた。それは私の生涯忘れぬ思い出として、何時までも記憶に残る大切な一齣である。私は翌日、七十五歳の誕生日をホテルで迎えた。

さて、平成十五年は、東京から福島に移り住んで、五十年という人生の歴史を飾る年であり、またラジオ番組「ふれスタ朝1番」が五百回を迎える記念すべき年でもある。さらに喜寿の祝いと重なるので、私は平成十五年を喜びの年と心に刻み、徳川夢声さんから貰った「榮声」の名を大事にしながら、新しいマイク人生を歩んで行きたいと思っている。そしてそんな夢を画いているときが、私の一番楽しい時なのである。

「ふれスタ朝1番」(ラジオ福島 土曜 朝6時) パーソナリティ

前すずらの会 会長

ほのほのコンサート

ある日の診察日、Kさんから「60の手習いではじめてピアノもう6年になりました。近く内輪でミニコンサートをやりたいのですが、先生来てくれますか？よろしかったら奥さんも一緒に」と言われ二つ返事でお受けした。

11月3日の夜、妻と2人、花束を携えて、指定されたレストランにおもむくと入り口でKさん御夫妻に迎えられた。中にすすむと、すでに10人ぐらいの方が席についていた。渡された手作りのプログラムには演奏予定の曲目と出席者の名前が書かれてあり、私たちは主治医とその夫人ということであった。

ワインが運ばれると奥様の司会、曲目紹介でKさんは静かに鍵盤に向かった。最初の曲はKさんの好きなリチャードクレイダーマンのナンバーから「パンドラの旅」であった。料理も運ばれ、私たちはシェフ自慢のディナーを賞味しながらKさんのピアノに聞き入った。

Kさんは18年前に心臓の2弁置換と1弁形成術を、そしてその10年後にはペースメーカーの植え込み手術を受けられた。2弁置換の術後は溶血がひどく、当時は再手術を何回も検討したほどであった。幸いにもその後Kさんは仕事に復帰され、60の定年まで仕事をまっとう、会社の同僚には定年を機にピアノを始めるけど、6年たったらコンサートに招待するよと約束したそうである。2年前には奥様も大きな手術をうけられた。大きな試練を何度となく乗り越えられただけでなく、人生を極めて前向きに生きてこられた御夫婦の今日は記念のコンサート。そんな思いがめぐり、胸が熱くなった。1年に1曲。Kさんは6曲を演奏され、ピアノか

ら離れた。何の気負いもない素晴らしい演奏であった。Kさんはその後奥様と各テーブルをまわられ、嬉しそうに談笑された。兄弟、親友、古くからの知人、お隣の方、会社の同僚、息子さん御夫婦などを招待されたほのほのコンサートであった。

文化の日の夜風は冷たかったが、開院して6ヵ月、これ以上ない暖かいプレゼントを胸に帰途についた。

平成14年11月8日

岩谷 文夫

(福島市医師会報寄稿文より)



信太 昭彦(福島市宮代)

人工弁で先生方、看護師さんにお世話になって18年になりましたが、無事に過ごさせていただいております事を心より感謝申し上げます。私はタバコを吸い始めて48年になりますが、旧医大病院の外來の廊下でタバコを吸っておりますと、星野先生・岩谷先生には「タバコはやめなさい」と良く注意されておりました。

平成3年12号の『すずらんの会』会誌の中に、岩谷先生の「ワーファリンのはなし」が載っております。

表：食物・嗜好品中のビタミンK含有量(μg/100g)では、納豆925、海苔1,386、タバコ5,000等々の数字を見て、それ以来頭の底では(タバコ5,000の数字が)いつも気になっておりました。

2~3年前より薬局でタバコをやめる薬が発売されて買いに行きますと、医師の処方箋で販売すると言われました。この度、岩谷先生が福島市太田町に開院されましたので、早速、タバコをやめたい事を相談いたしましたして、「禁煙補助薬ニコチネルTTS」の処方箋をいただきました。5月20日

より1日1回体に貼って禁煙に挑戦しました。9月7日で110日目になります。

岩谷先生のところへはじめは1週間ごとに4回、その後は2週間ごとに4回通って「禁煙」は成功するだろうと自分でも思うようになりました。

その期間中で苦しんだ事は、10日目に長距離の車を運転した時、禁断症状が出て、両手が震え、その時から3日程タバコを吸ってしまいました。しかし2cmくらい吸うと長い間吸っていた同じ銘柄が、味が違っておいしくなく、タバコの魔の魅力に敗けて吸っても、吐きけがして気分も悪く、お酒も食べ物もおいしくなくなりました。

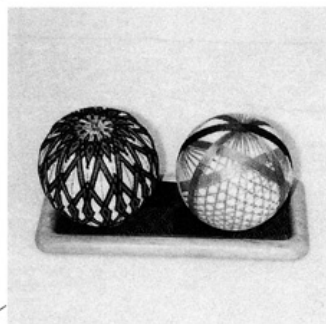
やめる努力をしておりますが、現在は近くの人がタバコを吸う時、煙が流れてきますと、ナントおいしい煙だろうと感じられます。その煙も嫌になってくれれば、初めて禁煙に成功できると思い、挑戦中です。

(すずらんの会会誌『すずらん』寄稿文より)

※12月20日現在見事継続中……………主治医



齊藤 秀さん(福島市太田町)：今年81歳になられる齊藤さんはリボンアートの達人です。お弟子さんも随分いらっしゃるようですが、リボンアートの話になると目が輝き、いろいろと作成のポイントや苦勞をはなされます。結局それだけで診療が終わることもしばしばですが、初診時に比し、最近はとてもお元気です。医院にもいくつかいただきました。これからも頑張ってください。



須田フミさん(福島市佐倉下) 須田さんからは見事な手まりをいただきました。あまり根を詰めないで楽しんでください。

患者さんの情報コーナー

短歌、俳句、川柳など

坂大りんさん(福島市佐倉下)
今回も坂大さんからは26もの作品をいただきました。紙面の都合上短歌2首、俳句2句を掲載させていただきます。

短歌

吾が肌に 影を映せる 百日紅
長き命を 愛でられて 咲く
古希の秋 バイパス3本 手術する
心の襷に 包まれて 十年

俳句

秋風に 師の香 流るる 遺墨展
開院に 植えし早苗の 実る秋

亀谷 正さん(福島市野田町)

亀谷さんからも短歌5首いただきました。3首掲載させていただきます。

吾子の住む 金沢の空幾千里
つつがなきやと 鈴虫の鳴く
此家彼家 金木犀のにはいたち
足取り軽く 秋風涼し
天高く 吾妻の峰もはや錦
里に広がる 秋桜花

☆医院からのお知らせ☆

【インフルエンザワクチン接種について】

当院でもインフルエンザワクチンの接種を行っています。今までのところ重大な副作用は経験しておりませんので安心してお受けになってほしいと思います。出来れば翌日が休みでない日（当院では月、火、金のいずれか）にお出でください。流行する前に接種を済ませてください。

【駐車場について】

医院前の駐車場（9台分）がいつばいときは道路の反対側のライフ調剤薬局の駐車場も使用可能です。受付に声をかけてください。

【待合室の温度調節について】

受付にて調節していますのでお気軽に希望をおっしゃってください。

【予約制について】

予約は時間予約も出来るようになりましたが、新患の方がいらっしやったりして多少ずれることもあります。ご了承ください。また受付のカウンターにその日の予約人数をお知らせしていますので待ち時間の参考にしてください。また患者さんの病気の状態によっては順番が変わりますのでその点もご理解いただきたいと思っております。

【次回来院時の検査について】

診察後、次回来院予約日を決めるときには、できるだけ検査の内容をお知らせするようにしています。検査は必要最低限にと考えていますが、自己負担額にも関係してきますので、遠慮なくご自分の希望、意見を言ってください。また、会計の際、お渡しする領収書の内容についてお知りになりたい方は受付におたずねください。ご自分のことですから納得いくまでお聞きください。

【患者負担金について】

昨年の10月から患者さんの負担金が変わりました。年齢や収入などが考慮され少し複雑ですので、一度窓口にてお確かめください。本年4月からはサラリーマン家族の窓口負担が3割になるそうです。

【掲示板】

待合室の左手奥にありますので時々ご覧ください。

吾妻山の「種まき兔」原話

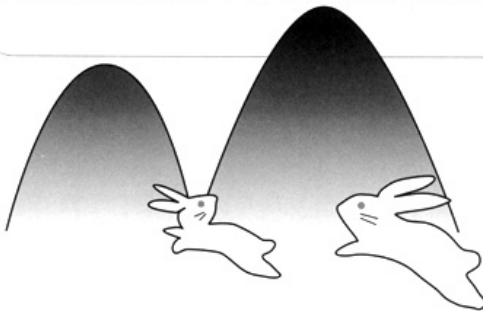
むかし 田沢村の兔田に見なし子がいたと、山の奥さちいさな田畑をつくって くらしていた。ある日 山で 親子の兔を ひろってかわいがっていた。

そのころ このあたりは、日でりがつづいて 田植えができない ひどい不作の年だった。・・・ 身なし子も うら山さ登って拝んでいると、二羽のトンビが天高くとんでいた。トンビは白いものをわしづかみにかっさらって 西山の方さ飛んでいってしまったと。飛んでいった先をみると、吾妻小富士の横はらに、親子の兔の雪形が ありありとあらわれていた。

トンビにさらわれた親子兔は、じつは 山神になっていたんだと。そこで 小富士の神を拜んで山をおりるとびっくりした。家の前の岩室から水がわき、秋になると村中 豊年満作になって、みんな 福しくなり、その子は大きくなると長者様になったと。

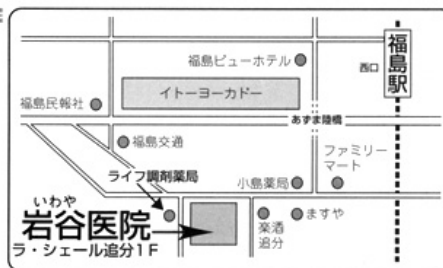
それから その田を「兔田」と吾妻山の雪形を「種まき兔」とよぶようになり、いらい 種まき、蚕の掃立ての目安となって、村は栄えもうしたと。

資料：「種まき兔」伝説発表会実行委員会



ゆきうさぎ第2号でお約束いたしました民話「種まき兔」の全文です。福島市蓬萊町3丁目にあります記念碑も見えてまいりました。資料提供者の小丸孝也さん（福島市蓬萊）に御一緒していただきました。

ゆきうさぎ 第3号（新春号）
平成15年1月1日 発行
編集発行 いわや 岩谷医院
〒960-8068 福島市太田町 17-27
ラ・シェール追分1階
TEL 024-528-7770
FAX 024-528-7780



交通：福島駅西口より 徒歩7分

★ 診療時間 ★
平日（木曜日を除く）
午前9時～12時 午後2時～5時30分
土曜日
午前9時～午後2時
休診日
日曜日・祝祭日・木曜日

★ 診療項目 ★
内科疾患・循環器疾患・動静脈疾患・先天性心疾患・人工弁管理・ペースメーカー管理・人工血管管理・基本検診 など